

(様式第4号)

調査研究完了報告書

調査研究課題	二枚貝が保有する下痢症ウイルスの把握と疫学解析
研究期間	平成26年度～30年度 5年間
目的	茨城県産の二枚貝が保有する下痢症ウイルスの実態を把握することにより、食品媒介による感染リスクやウイルス種を明らかにする。 ・二枚貝が保有している下痢症ウイルスと県内で発生した食中毒や感染性胃腸炎の原因ウイルスとの関連について解析する。 ・下痢症ウイルスの実用的(迅速性、正確性、簡便性など)検査法を検討する。
得られた成果	・市販用の茨城県産二枚貝から下痢症ウイルスが検出されることは極めて稀であった。 ・夏季(5月から9月)は、係留した岩牡蠣から下痢症ウイルスが検出されず、冬季(1月から4月)は、係留した岩牡蠣からノロウイルスの他にも複数の下痢症ウイルスが検出された。 ・ノロウイルスについては、河口付近の環境とヒトの流行に関連性があることが示唆された。 ・下痢症ウイルスのワンステップ RT-qPCR と fast-qPCR を検討し、現在の方法と同等の感度を維持するための条件等を明らかにした。
成果の普及・活用方法	・県内産二枚貝の安全性を PR することができる。 ・二枚貝の検査方法を確立できたので、モニタリング及び緊急検査に使用できる。
残された課題・問題点	・ウイルスの流行と環境への流出を予期することは難しいため、今後も引き続き二枚貝のモニタリングを継続していく必要がある。県の事業として年間50個の岩牡蠣を買い上げてモニタリングをする予定である。

完了評価結果報告書

令和 元年 9月16日

調査研究課題		二枚貝が保有する下痢症ウイルスの把握と疫学解析	
評価項目	評価	意見	備考
①調査研究の 妥当性	5, 5, 5, 5, 5, 4, 4 平均評価点 4.7	<ul style="list-style-type: none"> 茨城県特産の二枚貝における下痢症ウイルスの汚染状況とヒトへの感染との関係を明らかにすることが主な目的で、妥当な研究と評価できる。 環境水及び二枚貝に存在する種々のウイルスによる健康リスクは不明な点が多い。本研究は、環境水と岩牡蠣に存在する下痢症ウイルスを中心とした種々のウイルスを定量的に把握しており、高評価を与えることができる。 5年間で得たデータは多く調査期間、方法は適切であったと判断できる。一方、他の調査研究テーマよりかなり多くの予算をかけており、結果の活用など費用対効果を考慮した対応を期待する。 期間、方法は妥当。費用対効果は検査方法の条件を定めるに当たり妥当と考えるが、今後の下痢症対策に活かしてほしい。 	
②目標の達成度	5, 5, 5, 5, 5, 4, 4 平均評価点 4.7	<ul style="list-style-type: none"> 研究は概ね目標通り達成された。 モニタリングと緊急検査に使用できる二枚貝の検査方法を確立でき、県内産二枚貝の安全性を評価できる。 	
③成果の意義、 達成度	5, 5, 5, 5, 5, 5, 5 平均評価点 5.0	<ul style="list-style-type: none"> 種々の下痢症ウイルスが検出され、二枚貝の喫食による食中毒へのリスク評価が可能になったと思われる。 研究結果から、患者の汚物・排泄物中のウイルスが河川等に移行し、係留した二枚貝を汚染した可能性が高い。これは保健衛生上の重要な問題点と思われる。 本研究結果は保健衛生行政にも活用可能であり、県民の啓蒙活動にも活用が期待できる。 今回確立した検査法を今後の解析に有効利用してほしい。 	
④総合評価	5, 5, 5, 5, 5, 5, 5 平均評価点 5.0	<ul style="list-style-type: none"> 係留した岩牡蠣の下痢症ウイルスの遺伝子解析、及びヒト患者の遺伝子型の比較を行い、研究の目的は概ね達成されたと思われる。 市販品、係留、ヒトのデータを詳細に解析・比較しており、多くの知見に富む研究成果となった。保健衛生行政や県民への情報提供だけではなく、学術論文として広く成果を公表することを期待する。 種々の下痢症ウイルスが検出され、二枚貝の喫 	

		<p>食による食中毒へのリスク評価が可能になっただけでなく、ヒト由来のノロウイルスと二枚貝から検出されたノロウイルスの遺伝子型の乖離など興味深い知見が得られた。本研究結果を英文誌に発表されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 食品の安全性確保に役立つという点で評価できる。県内産二枚貝の安全性と危険性について関連業者や消費者に正しく伝える情報発信を工夫してほしい。この成果を、今後のモニタリングに活かすことを期待する。 • 本研究により保健衛生上重要な問題点が指摘されているので、保健所、医療機関と連携して行政に反映させてほしい。 	
--	--	---	--

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好

追跡評価実施の 要否	要：0人 否：7人		
---------------	--------------	--	--